

「中間圏・熱圏・電離圏研究会」(略称：MTI 研究会) 活動について

「中間圏・熱圏・電離圏研究会」(略称：MTI 研究会)は、以下の趣旨のもと平成13年10月13日にSGEPSS 運営委員会において承認されました。

設立趣旨

中間圏・熱圏・電離圏は、気象学的な中性流体としての大気とマクスウェル方程式の支配する電離大気が相互作用し複雑な様相を示しています。この領域での電離大気・中性大気相互作用、あるいは化学反応とダイナミクスとの関連等が近年非常に注目を集める研究分野となっています。

この領域をターゲットとする研究者は気象学、地球電磁気学、電波工学、あるいは大気化学と様々なベースを持ち、また研究の手段も数値シミュレーション、大気大循環モデル、地上からの光学・電波観測、気球やロケットおよび人工衛星等の飛翔体観測と多岐にわたります。

このように様々なバックグラウンドを持つ研究者が相互に交流し、協力しあう場を作り、より効率的で効果的な研究活動に繋げることがこの会の趣旨です。現在進行中のプロジェクトを更に発展させるとともに、萌芽的なプロジェクト・研究活動が育つ環境づくりに主眼を置き、多くの人が自由に参加できる会を目指します。

第1回会合報告

場所：九州大学理学部 物理学第3講義室(2249号室)

日時：平成13年(2001年)11月22日(木) 12:30~13:30

参加者計：38人

議題

1. 運営について

第1回の会合のため、当分科会発足に至る経緯の説明(石井)

会の目的、位置付け、背景について

分科会設立発起人を初代の世話人とする提案がなされ、承認された。

世話人：

- 石井 守 (通信総合研究所): 代表
- 塩川和夫 (名古屋大学太陽地球環境研究所)
- 中村卓司 (京都大学宙空電波科学研究センター)
- 野澤悟徳 (名古屋大学太陽地球環境研究所)
- 藤原 均 (東北大学理学研究科)

2. 講演

江尻全機(極地研)「南極昭和基地大型大気(MST / IS)レーダー計画」

略称：PANSYレーダー(PANSYはProgram for ANtarctic SYowa という意味で、アレシボやヒカマルカやKST(キルナ・サダンキラ・トロムゾ)等々と同じくレーダーの有る位置(場



所)を明確にした”南極昭和基地プログラム”として位置付けました)

極域の電離圏・中間圏・成層圏および対流圏の大気(電離大気・中性大気)観測を中心に計画し、信楽 MU レーダーと大きさ・出力等同規模を目指す。MU レーダーでは送受信器をグループ毎に小屋に入れる設計だったが、赤道レーダーでアンテナ 1 本ごとにつける設計になった。PANSY では E A R 方式でさらに送信周波数制御等及び受信のフロントエンドの総デジタル化を目指す。皆さんの積極的な御参加、ご協力を御願います。

丸山 隆「情報交換として最近実施した HF 赤道横断伝搬の結果と東南アジアでの多点観測計画」

山本 衛「国際 EPIC シンポジウムのご案内」

2002 年 3 月 18 ~ 22 日、京大宇治キャンパスにて開催
投稿締め切り 2002 年 1 月 1 日

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/epic/> に情報掲載



久保田実「2002 年 2 月に実施される HAARP キャンペーンを紹介」

HAARP (High frequency Active Auroral Research Program) の装置概要

実験目的： トラフ領域の調査・F 層における人工大気光の生成と応答の観測・

スプラディック E 層における人工大気光の生成

実験期間：2002 年 2 月 3-17 日 (max. window 1/31-2/19)

CRL はイメージャによる大気光 (777.4nm, 630.0nm) 観測を主に担当。詳細は未定。

なお、当初予定されていた中村卓司さん(京大 RASC)の「PSMOS/MLT 国内観測の観測データベースについての議論」は本人急用のため後日検討とのこと。

なお、11月21日夜7時より、福岡市赤坂にて懇親会が執り行われ、社会人31人、学生14人計45人の参加があった。

ホームページ及びメーリングリストについて

現在、分科会ホームページ、およびメーリングリストを整備し、運営に関わる連絡・議論等を行う基盤整備がなされている。

詳細については世話人への連絡、もしくはホームページを参照されたい。

【ホームページアドレス】 <http://www2.crl.go.jp/dk/c216/MTI/index.htm>

文責：石井 守(独立行政法人通信総合研究所(現在、内閣府総合科学技術会議併任))